Ⅷ．学生ボランティアサークルの支援

1．ボランティアセンターに登録している学生ボランティアサークル一覧

①「東日本大震災復興支援団体Frontiers」…… 活動拠点：池袋キャンパス

2011年東日本大震災の発生後にボランティアとして被災地を訪れた学生が、現地の方々とのつながりを後世にも残したいという想いから結成したサークルである。現在は、コロナ禍で物理的な支援も傾聴ボランティアも実施していないため、自分たちの団体の存在について目的や意味を探しているところであるが、活動理念や「学生である私たちにできることは何か」を考えながら、東北を訪れるツアーの実施、情報発信に取り組んでいる。

②「東日本大震災復興支援団体Three-S」…… 活動拠点：新座キャンパス

東日本大震災以降、11年間復興支援活動に取り組んできたThree-Sでは、被災地や東北を知り、関わりを維持することと共に、東北の魅力を伝え続けること、そして災害について学び続けることを大事にしている。現在は現地での合宿を実施したり、防災学習イベントに参加したり、学園祭で東北のグルメ販売や写真展を行ったりしている。

③「立教学院諸聖徒礼拝堂 日曜学校さゆり会」…… 活動拠点：池袋キャンパス

日曜学校さゆり会は、日本聖公会東京教区に属する立教学院諸聖徒礼拝堂（立教大学池袋チャペル）の日曜学校（教会学校）であり、聖公会の伝統に基づくキリスト教教育の一環として、チャプレン（日本聖公会司祭）のご指導のもと礼拝を行っている。子どもたちにとっても私たちにとっても「もうひとつの家」となる存在であるため、子どもたちと全力で楽しむ気持ちを何よりも大事にしている。

④「堀の内セツルメント」…… 活動拠点：池袋キャンパス

子どもと遊ぶ機会や場所、方法をサークル員みんなで考え、創り、その活動を通して多様な経験を得ることを理念としている。また、当団体に所属している子どもたちとの交流を深め、保護者の方々、地域の方々に貢献することを目指し、公園での活動や七夕会、クリスマス会、キャンプなどを実施している。

⑤「RESC（立教大学教育研究会）」…… 活動拠点：池袋キャンパス

小学校でのボランティア活動を通して、小学校という「教育の場」を肌で感じ取ることを活動理念としている。実際に子どもや先生と関わることによって理論だけでは感じ取ることが難しい個人としての感情や行動、小学校の実情などを頭だけではなく五感を通して感じ取ることを大きな目的とし、週１回程度それぞれの空きコマに合わせて担当小学校を訪問。授業やクラブ、委員会などのお手伝いをしている。

⑥「子どもクラブBambino」…… 活動拠点：新座キャンパス

子どもたちの居場所をつくることを目標に、「子どもたちが明るくのびのび過ごせる空間づくり」のお手伝いをしている。私たち自身も学童施設での活動や大学祭などの行事を通じて、企画力やコミュニケーション力を高める機会をもてるように取り組んでいる。

⑦「PRC（Philippines Relationship Club）」…… 活動拠点：池袋キャンパス

第二次世界大戦下に日本軍による焼き払いに遭い、戦後には日本企業の開発のために破壊されてきた「フィリピンの森林」を取り戻そうというフィリピン独立教会の呼びかけに共感したことから活動が始まった。運営の全てにおいて、メンバー各々が自らの頭で考え、話し合い、決断していき、協同して問題に取り組むことや、現地でともに活動するメンバーとのミーティングを通して学生一人ひとりの自己実現の場となることができるような団体であることを大切にしている。

⑧「立教大学 アジア寺子屋」…… 活動拠点：新座キャンパス

フィリピンでの滞在を通して異文化に触れることにより、互いを理解し自らの見識を深め、村の生活に溶け込み、フィリピンとアジア寺子屋を『ただいま』と言えるふるさとにすることを理念としている。
また、キャンプを通して、普段の生活ではあまり考えることのない「家族」や「豊かさ」「自分自身」について見つめなおし、各々が何を感じるかを大切にしている。

⑨「手話サークル Hand Shape」…… 活動拠点：新座キャンパス

聴者、ろう者（聴覚しょうがいしゃ）と分けて考えるのではなく、皆が楽しく気軽にコミュニケーションを取り合えるような環境を生み出すための一つの手段として手話を学んでいる。
また、手話歌の発表を単なるパフォーマンスに留めるのではなく、しょうがいの有無に関わらず、誰もが楽しめるようなものになるよう一人ひとりが工夫を凝らしている。

⑩「ボランティアパフォーマンスサークル どりぃむ・ぼっくす」…… 活動拠点：新座キャンパス

部員がクラウン（ピエロ）というキャラクターになり、ジャグリングやパントマイム、バルーンアート等のパフォーマンスを行うことで、不思議で楽しい世界にご案内している。「パフォーマンスを通して、児童、高齢者、しょうがいしゃ、地域の方々などと交流し、楽しい時間を共有すること」を活動理念としている。

⑪「立教エコキャップ推進委員会 REPC」…… 活動拠点：池袋キャンパス

A. 社会的貢献への寄与（エコキャップ・古着・コンタクト空ケース）
（1） 焼却処理を減らし、再生利用を促進することでCO2の削減につなげる。
（2） 発展途上国の医療支援につなげる。
（3） SNSでの啓発活動を通し、リサイクルへの意識を促進する。

B. 清掃業者の方々の負担軽減（エコキャップ）
現在、キャンパスでのキャップ回収は清掃業者の方々によって無償で行われている。清掃業者の方に頼り切っている現状に対して清掃業者の方の負担を軽減できるような施策を実施する。

⑫「海岸清掃サークルR.S.C.C.（Rikkyo Sea Cleaning Circle）」…… 活動拠点：池袋キャンパス

「サークル活動を通して環境問題への意識を高めること」「ボランティア活動を取り入れたライフスタイル、キャンパスライフへの挑戦を試みること」「海に遊びに来る人たちが気分よく過ごせるような環境をつくること」を活動理念とし、月１回程度の海岸清掃活動を行っている。

⑬「立教大学 B.S.A.第８支部」…… 活動拠点：池袋キャンパス

「B.S.A.」は昭和２年にポール・ラッシュ博士によって設立された団体で、正式名称は「Brotherhood of Saint Andrew（聖徒アンドレ同胞会）」である。その中で、学生キリスト教団体としてボランティア活動を続けているのが第８支部であり、毎年お世話になっている方々や同じ学生キリスト教団体などの他者との繋がりを意識し、《世界とつながるボランティア》をモットーに、体を張って活動している。

⑭「立教大学 G.F.S.」…… 活動拠点：池袋キャンパス

教会を拠点として、社会に存在する様々な問題に対して活動を行う。多くの方々との交流を通して、真摯に問題と向き合い、深い理解に繋げる。そのために一つひとつの出会いや学びを大切にし、積極的なボランティア活動を行っている。

⑮「立教YMCA」…… 活動拠点：池袋キャンパス

「キリスト教の精神に基づき社会奉仕を行うこと」を活動理念に掲げている。総合ボランティアサークルとして、地域でのボランティア活動から被災地、海外での国際的な活動に至るまで幅広く活動している。

⑯「献血運動の会」…… 活動拠点：池袋・新座の両キャンパス

学生健康保険互助組合である学生保健委員会の外郭団体に位置し、キャンパスごとに独立して活動している。相互扶助＝助け合いの精神とし、献血推進運動をすることで、助け合いの輪を広げることを活動理念としている。

⑰「SEMBRAR」…… 活動拠点：新座キャンパス

ボランティア活動を通じて、友人や地域の方々など、かかわる方々皆様と親交を深めること、活動を通じて福祉に対する知識を深め、人とかかわることの大切さを学び、自分や仲間にとって大切な経験となることを理念とする。児童領域、高齢者領域、しょうがい領域、地域領域の４つを軸に活動している。

2.　2022年度の支援

① 『立教大学 学生ボランティアサークル案内』の製作・配布

実 施 日	2022年４月～
配布場所	・ 各キャンパスのボランティアセンター窓口 ・ ボランティアセンター前掲示板（新座：７号館２階）
対　　象	掲載団体：ボランティアセンターに登録している学生ボランティアサークル 配布対象：ボランティア活動に関心のある学生

■ 掲載内容

・ 活動分野ごとの分類

・ 各団体の情報（活動理念、活動内容、活動の魅力、代表者名・学部学科、SNSアカウント、連絡先、活動写真）

② 「子どもスポーツ大学★ふじみ（乗馬体験）」のコーディネート
（支援対象：子どもクラブBambino）

主　催	埼玉県富士見市
実施日	2022年７月３日（日）
場　所	立教大学 富士見総合グラウンド
対　象	富士見市内の小学生30名と保護者

立教大学 馬術部による乗馬体験として、馬についての理解を深める講義や馬術部員による模範演技、乗馬体験、餌やり体験、蹄鉄磨きなどが行われた。その中で、「子どもクラブ Bambino」の学生６名が小学生のまとめ役として活動。

当日は気温が高く、熱中症の心配もあったが、暑さ対策のため一部プログラムを変更したり、室内で行う時間を増やしたりするなどの工夫をして実施した。目を輝かせて馬と対面していた子どもたちや保護者の様子が印象的だった。

▲乗馬体験の様子

▲餌やり体験の様子

③「3.11ユースダイアログ～若者の言葉から東日本大震災のことを知ろう、語ろう～」の開催
（支援対象：東日本大震災復興支援団体 Frontiers）

主　　催	東日本大震災復興支援全国ネットワーク（JCN）
協　　力	立教大学ボランティアセンター、Frontiers、日本福祉大学災害ボランティアセンター、NPO法人レスキューストックヤード、まるっと西日本、大阪ボランティア協会
助　　成	復興庁コーディネート事業
開催日時	実行委員会による企画・準備期間：2022年７月３日（日）～12月21日（水） イベント開催日：2022年12月４日（日）13：00-16：00
場　　所	東京会場：立教大学 池袋キャンパス 太刀川記念館 ３階カンファレンスルーム 愛知会場：日本福祉大学 東海キャンパス 大阪会場：大阪ボランティア協会　※３会場をオンラインで結んで同時中継
対　　象	同世代の若者、東日本大震災を経験した若者の声に関心ある方
参 加 費	無料
定　　員	各会場 30名
ゲ ス ト	東京会場：川田　季代 さん　（出身地：福島県 南相馬市 小高区） 愛知会場：久保　翼 さん　（出身地：岩手県 釜石市 両石町） 大阪会場：岩佐　優稀子 さん（出身地：宮城県 亘理郡 山元町）
参加者 （東京会場）	一般参加：13名（申込：15名） 〈運営〉Frontiers：８名／JCN：１名／ボランティアコーディネーター：１名

■ 実行委員会への参画と企画準備

東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）が2019年から実施している「3.11ユースダイアログ」は、震災当時、小中高生だった若者が「当時の出来事やその時感じていたこと」「現在に至るまでにどのような思いで人生を送ってきたのか」などを同世代の若者に伝えていくことで、東日本大震災の記憶や教訓などを次の世代や災害に繋げていく取組みである。

今年度、JCNのスタッフから全国版として実施を予定していた同企画の実行委員会への参加呼びかけがあった。そこで、東日本大震災の復興支援に携わってきた「Frontiers」の学生２名とボランティアコーディネーター１名が「3.11ユースダイアログ実行委員会」に参画し、JCNの岩手・宮城・福島の現地スタッフや東海・関西で震災支援に取り組む大学・団体などとともに、オンラインミーティングを重ねて、震災当時子どもだった世代の「語りの場」を企画した。

■ イベント当日

当日は、東京会場、愛知会場（日本福祉大学 東海キャンパス）、大阪会場（大阪ボランティア協会）の各会場を拠点としながら、それぞれをオンラインで結んで同時開催した。

－第１部：ゲストスピーカーのお話（各会場の登壇者のお話を順番にお聞きし、全体で共有）

東京会場で登壇された川田 季代（かわた きよ）さんは、福島県南相馬市小高区出身で震災時は小学5年生。震災後は原発事故の被害が残る福島県を離れ、千葉県や東京都、宮城県等で避難生活を送った。

今回のように多くの人の前で自分の経験を語る機会は初めてに近く、最初はとても緊張されていたが、聞き手を務めたFrontiersの学生の問いかけに答えながら、震災による環境の変化を子どもとしてどのように受け止め、何を感じていたのかを丁寧に話していた。

－第２部：各会場での質疑応答や交流・各会場で登壇するゲストスピーカーを交えての対話

東京会場では、5～6人のグループに分かれて、「登壇者の話を聞いた感想」を共有した。各グループには、順番にゲストの川田さんに入っていただき、そこで質問にも答えていただいた。

さらに、各グループではFrontiersの学生がファシリテーターとなり、「震災当時のこと」「震災から今までのこと」「これからのこと」を軸に、参加者それぞれが自分の経験を語った。震災当時、その影響を感じていた人もいれば、現在仕事を通して災害に向き合っている方もおり、その経験は様々

で一人ひとり違うのだが、震災の被害は大小で比べられるものではないからこそ、様々な経験を聞き、自分の経験と重ね合わせることで、少しずつ「3.11」が自分事になっていたようだった。

■ 東京会場の参加者の感想（一部）

・ 今までは、比較的年齢層が高い方の経験談ばかりを伺っていたので、自分と同世代の方のお話を聞けて、新たな視点から震災と向き合うことができて良かった。
・ 私も家族同然の犬と暮らしているので、ペットとのお別れのお話がかなりショックでした。ペットとの避難について考えさせられました。
・ 生の声はやっぱり心に残る。
・ 学生だけじゃなくて社会人の方との意見交換は新鮮でした。
・ 今までになかった視点で考えることができるようになり、とても有意義な時間だった。これからのボランティア活動につながるといいなと思った。
・ 正直私は日曜日の午後の暇つぶしくらいの感覚で参加したのですが、皆さん震災と繋がりのある人達ばかりで、普段何も行動しなければ耳にすることすら無かったであろう話を聞けてすごく有意義な時間になったと思う。

▲ゲストスピーカーの語りの様子

当日の様子をボラセン公式noteで公開中！
右の二次元バーコードを読み取り、
記事をご覧ください。

③ 「ボランティア・プレサミット」

開催日時	2022年12月15日（木）昼休み（12：35～13：20）
場　　所	オンライン（Zoomミーティング）
実施目的	(1) ボランティアサークルの近況報告を通して、各々の現状や活動の工夫を共有すること。 (2) 次年度の新入生オリエンテーションに向けて、準備プロセスの理解を深めること。 (3) その他、ボランティアセンター（大学）からのお知らせを伝えること。
参加団体	R.S.C.C、REPC、日曜学校さゆり会、堀の内セツルメント、RESC、PRC、Frontiers、Three-S、B.S.A第８支部、G.F.S、立教YMCA、献血運動の会、手話サークルHandShape、アジア寺子屋、どりぃむ・ぼっくす　※計15団体
内　　容	(1)「開会のあいさつ」 ・ 趣旨説明 (2)「ボランティアセンターからの連絡」 ・ ボランティアを行うにあたっての留意点（ハラスメント、ボランティア保険等） ・「災害救援ボランティア講座」参加者募集のお知らせ ・ ボランティアセンターへの団体登録制度について ・「立教生ボランティア活動報告会」での発表団体募集について ・「2023年度新入生ボランティアオリエンテーション」の準備について (3)「学生ボランティア団体紹介（各サークルから）」※1サークル1分程度 (4)「閉会の挨拶」

今年度から対面活動が可能となり、サークルの活動も本格的に再開した。しかし、コロナ禍2年間のブランクの影響もあり、サークル幹部の学生からは「大学から近いところでのボランティア募集情報が欲しい」「メンバーが少なく毎週の活動が負担になっている」などの声が寄せられた。

ようやく動き出した活動がより良いものになるよう、日頃から丁寧にフォローしていきたい。